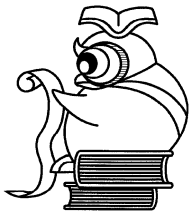
ぱぴるす
聖学院大学総合図書館報
第44号（2007年春）
祝卒業・
新入生歓迎号



ヨーロッパの格言

金子　晴勇

ヨーロッパ人の生活の中には古典の叡智が格言というかたちで活かされている。格言は英語でマクシムと言われているが、この語はラテン語の「もっとも重要なもの」に由来する。それゆえ格言は「最も重要な生き方」を暗示しており、それが使われる国々や各人の文化的特徴をよく示している。

格言を収集した作品が16世紀ルネサンス時代に多く出版された。その最大の規模のものはヒューマニズムの王者と言われるエラスムスの『格言集』（Adagia）である。この書は1500年に初版が出たが、版を重ねるごとに厚くなり、最終版では4151個の格言が収録された。わたしはその最終版に属する1617年にハノーバーで出版されたものを所有している。それはとても古くなっていても出版されたときは子牛革製の美装本であった。

当時の人びとはこのような格言を口にすることによってギリシア・ローマの古典および聖書の神髄を身につけることができると信じた。この作品では古典語の格言があげられているだけでなく、エラスムスはヒューマニストらしく多数の文献を渉猟しながら、それぞれの格言がどのような意味で用いられてきたかを説明し、非常に詳細な解説を加えて紹介した。そのなかでも解説が最も長いものに「戦争はそれを経験しない者によって好まれる」があり、次に長いものには「アルキビアデスのシレノス像」というのがあって、これはプラトンの『饗宴』から取材した将軍アルキビアデスの話しに出てくるもので、外見は野獣面のシレノス神のように醜いが、その心は黄金の神像であるという、人間の内面と外面との矛盾を示す修辞学的な表現である。

一般的にいってヨーロッパの格言はギリシア・ローマの詩人の作品に由来するものが多く見られる。わたしが三年前に入手したローマの大詩人ホラティウスの全集はポケット版のきわめて小型の書物であったが、ラテン語の文法を教えていて、ここから練習問題が多数出題されているのに気づいた。これらの格言は余りに内容が優れているので学生に暗記してもらったが、その中にはたとえばこんなものがある。①「黄金の中庸」。②「貪欲な人はいつも不足している」。③「遊びは混乱や争いや怒りを生む」。④「多くの労苦なしには生命は死すべきものに何ものも授けない」⑤「煩わしさを離れて祖国の土地を自分の牛で耕す人は幸いである」。この中で①は『論語』にある「過ぎたるはなお及ばざるごとし」と同じで、アリストテレス以来行動の原則とみなされている。⑤は引退した老人が掲げる理想である「晴耕雨読」と同じ内容である。

わたしは学生のときからケーベル博士（明治26年来日し東大で哲学を講じた）の随筆集を愛読してきたが、彼は日本の学生に「ゆっくり急げ」（festena lente）を訓言として常に与えた。これは「仕事に早く着手し、時間をかけて学びなさい」という意味である。

終りにわたしはこれまで常に念頭に置いてきた金言を新入生の諸君に贈りたい。それは「千里の道も一歩から」という訓言であるが、これはヨーロッパでは「ローマは一日にして成らず」といわれる。その意味するところは説明を要しないほど明瞭である。ただ「一歩」を日々踏み出すことだけが大切なのである。

（アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科　客員教授）

**図書館ツアーと
オリエンテーション受付中！**

個人でもグループでも申込みができます。
内容は館内の案内や本の探し方、データベース紹介など。ぜひ参加してください。
申し込みはカウンターまで！

本との出会い

永井　理恵子

大学図書館に入館し、書棚に並ぶ本を見ると、背表紙には難しい題が並んでいます。それを見ただけで、自分には読めないのではないかという思いを持つかたも多いことでしょう。

しかし、そのようなことはありません。面白いことをお話します。私は、指導している学生に、各自の研究課題に関する本を自分で探し持参するように指示しますが、その際にとても驚かされることがあります。それは、まだ研究を始めたばかりの学生が自分で探してきた本なのに、その本が非常に有名な研究者の著作であったり、とても優れた内容の書物である場合が、実に多いということです。

また私は、いつも何らかの本を求めて探し歩いています。書名や著者名が事前にわかっていて探し、見つける場合もありますが、自宅近くの小さな古書の店にフラッと入った折に、書棚の片隅に、長く探していた本がヒッソリと置かれているのを偶然に見つけることもあります。このように、思いもかけず欲しい本に出会うことを、私は幾度となく経験してきました。

私の指導教授は、次のように言いました。本の著者は、自分の思いを本に託し、命を注ぐように本を書いた。だから一冊一冊の本には、著者の思いが込められている。本は、そのような著者の思いを蓄えながら、自分（本）との出会いを求める読者の到来を待っていて、その人が近くに現れると密かに読者を呼ぶ。だから、本が呼ぶ声に耳を澄ましているようにしなさい…。

私は、優れた本を学生が自分で探して持参した時や、私が求めていた本に偶然に出会えた時などに、この教授の言葉を思い出すのです。

聖学院大学の図書館にある沢山の本は、皆さんが近くを通るのを待っています。本の近くに行けば、本が皆さんを呼ぶ声が聞こえると思います。皆さん、どうか図書館に通い、皆さんを待っている沢山の本に出会ってください。

（児童学科　助教授）

ロンドンの ミュージアム・ライブラリー案内

近藤　存志

1998年に開館した大英図書館は、もともとは大英博物館の付属図書館で、その歴史は1753年にさかのぼる。マグナ・カルタを含むその貴重なコレクションや蔵書の歴史的価値を考えれば、大英図書館が大英博物館の一部であったことも頷ける。

大英図書館は、今では大英博物館とは別組織となったが、ロンドンには今もこうした美術館や博物館の中に設けられた図書館が数多く存在する。

ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館は、イギリス国内外の工芸・美術品を所蔵、陳列する巨大な博物館である。この博物館の中にある図書館は国立の美術専門図書館で、博物館の最上階にあるその優雅な大閲覧室へは、連日、美術史の研究者はもちろん、美大生やデザイナーの卵たちが足しげく通っている。蔵書も貴重なものが多く、著名な芸術家の直筆の日記なども実際に手にとって読むことができる。

テムズ河岸に建つテイト・ギャラリーは、ウィリアム・ブレイクやターナーの絵画作品を多く所蔵することで知られるが、ここにも小さな付属図書館がある。こちらはギャラリーの地下に位置し、近代的な内装の小空間である。適度に張り詰めた緊張感が漂う閲覧室は、やはり美大生の勉学の場として活用されている。

ロンドンの街並風景

18世紀のイギリスで活躍した建築家ジョン・ソーン卿の自邸は、今では彼の名前を冠した美術館として一般に公開されている。ここにも小さな付属図書館がある。20畳足らずの狭小な閲覧室への入口は、人ひとりがやっと通り抜けることができ

るような小さな扉で、その先に図書館があると知らなければ見過ごしてしまう。この図書館の利用は予約制で、１日数名だけが閲覧を許される。一般の人々にはほとんど知られていない秘密めいた小空間で過ごす静かな読書の時間は、まさに至福の時という表現がピッタリなのである。

世界中から集まる観光客でごった返す美術館の一角にあるミュージアム・ライブラリー。西洋美術史やデザイン史に関心のある学生諸君は、そうした図書館を覗いてみてはいかがだろうか。一味違ったロンドンのアート・シーンを体験することができるはずである。

（欧米文化学科　助教授）

ライブラリー・アシスタントとして

103L073　滝島　洋一

あなたの好きな場所は？と聞かれたら私は即座に「図書館」と答えます。

私にとって図書館で過ごす時間は､精神的に｢森林浴」と同じ効果を与えてくれるように思います。図書館に一歩足を踏み入れると、外の騒々しさから切り離され､「本」独特の香りが心を落ち着かせ、ページをめくる音が木の葉の揺らぎに似た音を立てています。

私は３年生春学期から現在までこの図書館で「ライブラリー・アシスタント」として、３階でパソコンの貸し出しをしています。私にとっては「癒し」の場である図書館ですが、他の学生達はどのように利用しているのか、カウンターの中から見た事、感じたことを思い出しながら二年間を振り返ってみました。

通常授業のときには、空き時間をゆっくりと過ごす学生が多く見られます。目当ての本を探したり、パソコンを操作したり、グループで話し合いをしたりといわゆるキャンパスライフを楽しむ場として利用しているようです。この雰囲気が一変するのが、試験前、試験期間中です。試験に備えての勉強、パソコンを使ってのレポート作りなど、学生の本分である「勉学」の場となります。この期間のほんの少しではあるが殺気立った、緊張感のある図書館が私は嫌いではありません。

10月になると、学内ではスーツ姿の学生が多く見られます。図書館にも、キャリアサポートセンターで、就職ガイダンスのビデオを借りた学生が、視聴覚コーナーを利用しに来ます。私も自分の就職活動を思い出し、今、まさに就活戦線真只中の後輩たちに言葉には出さないが「がんばれ」という気持ちを込めてヘッドホンなどを貸し出しています。

私のライブラリー・アシスタントとしての役目も残すところあとわずかです。癒し、勉学、その他諸々の目的で来館する学生が気持ちよく利用できるように、最後までお手伝いをするつもりです。これからも図書館を積極的に利用し、充実した学生生活を送ってください。

（コミュニティ政策学科）

３階カウンター

●ノートPCを借りる･視聴覚資料を見る●

ノートPCや視聴覚資料の利用は、３階カウンターでライブラリー・アシスタントが受付しています。ノートPCの貸出には、学生証が必要です。視聴覚ブースの利用は申込書に記入し、ヘッドホンを受け取ってください。ソフトは棚に並んでいます（持込不可）。ノートPC・視聴覚資料（除くCD）とも利用は館内のみです。空き時間にどうぞ。

ライブラリー・アシスタント募集

図書館で、働いてみませんか？学生アルバイトを若干名、募集しています。興味がある人は、図書館カウンターまで。

勤務時間：平日　９時～18時30分（３交代制）
業務内容：ノートPC貸出・メンテナンス等
資　　格：「コンピュータ基礎A」修了者

申込み締切り　2007年４月４日（水）17時

知識への第一歩

103J017　岩田　佳子

私は図書館が好きである。実際大学生活の中でもよく利用している。読書をしていなくても、図書館の机に向かって、本に囲まれているということが私にとって非常に楽しいのである。

しかし、聖学院の全学生が図書館を定期的に利用しているか、という面ではそうではないと思う。最近の利用者を見ていて感じることは、研究やレポートのためという必要性のある読書ではなく、『純粋に本を楽しむ時間』を持っている人が、年々減ってきているのではないかということだ。

もちろん、意図的に図書館へと足を運び、図書との時間を持っている人も、学内に大勢いるが、それと同じくらい図書館を利用していない人も多いのではないだろうか。それに加え、図書館でも、パソコンを利用する人が増え、パソコンから多くの情報を得る人が増えていることも本を読まない理由の一つになっている。

このパソコンという情報媒体の活用も、情報の集まる場所として、図書館がたどり着いた姿なのかもしれないが、私はやはり皆さんにデータとしての情報だけでなく、本を手にして貰いたい。

新入生の中にも『図書館の利用の仕方が良くわからない』『読みたい本がない』と、図書館を敬遠する学生は少なくはないと思う。しかし、それこそ自分と良書との出会いを、自ら放棄するということになりうる選択なのだと思う。最初から敬遠してしまって、図書館に足を運ばないということは、本を必要とする際にも図書館を使いこなせないままで、図書館の楽しみを減少させてしまう。

確かに、今まで図書館と離れていた人にとって、『大学図書館』は重々しくうつるのかもしれないが、自分で想像して心理的に壁を作り出してしまうより、まず一歩、足を進めてみてはどうだろうか。

大学図書館には、もし利用する上で迷うことがあれば、それに答えてくれる職員もいるし、レファレンスのカウンターも設けてある。何も心配する必要はないのである。

まず一歩。本はきっと、皆さんに会える日を静かに待っていてくれているのだから。

（日本文化学科）

私の大学四年間

103C007　飯田　未央

私が図書館に通うようになったきっかけはレポート。レポートは未知の世界。何をどうしたらよいかまったく分からなかった。勉強をしたことがない自分にとっては不安でしょうがなかった。テストなどは授業さえ聞いていれば勉強しなくてもできる。しかしレポートは授業を聞いているからってできるわけではないし、テストのように受ければ良いと言うわけにはいかない。確実にやらなければならないものなのだ。

勉強も楽しいけど、早く帰って遊びたいがためになるべく午後の授業はとらず午前中に集中させよう。入りたてのころはそう思い授業を選択していた。そんな意気込みでレポートなんて終わるはずがない。勉強は好きだが授業以外では勉強はしたくない私にとっては辛く先が見えなかった。

大学は高校と違って空き時間というものがある。その時間に終わらそう。学校以外では勉強をしたくない私にとってはそれしか浮かばなかった。そう決意した私は、空き時間、昼休み、礼拝の時間を使いレポートを終わらせた。しかしだんだんレポートの量が増え内容が濃くなり学校だけでは間に合わなくなった。だから家に持ち帰ったが何もできず締め切り前日になり授業が終わったあとも図書館に残り終わらせた。それからは学校がある日は図書館に残ってレポートをするようになった。また、今まで出された宿題や課題も図書館で終わらすことを覚えた。そしてレポートや課題に使用する資料も図書館で探す事ができることを知った。

まさか自分が図書館に通うなんて、調べ物をするなんて、思ってもみなかった。

図書館があったからこそ休みの日や学校が早く終わった日は遊びに行ったり趣味に時間をかけたりできたのだ。だから早く帰ることができるテスト期や補講期間に私は好きなことができたのだ。

私にとってこの四年間が一番勉強した。そして勉強と遊びの両立もできた。それは図書館があったおかげなのだ。多分私にとってこの図書館は一生の思い出になるであろう。

（児童学科）

図書館のススメ

今まで図書館を「本を借りる」という用途でしか使ったことがない人、それどころか、めったに図書館に行ったことがない人、大学図書館をもっと知って、活用してみませんか。

「なぜ、図書館に行かなきゃならないの？　中学・高校までは別に図書室に行かなくても授業は困らなかったよ」と思う人は、**千野信浩著『図書館を使い倒す！』（新潮社）** 請求記号 015||C47 を読んでみて下さい。週刊ダイヤモンドの記者である著者は、ネットになければ情報探索をあきらめてしまう現状を嘆き、レポートや論文に活用できる情報を図書館でどれだけ収集できるかを熱く語っています。

「図書館を使わなければならない理由はわかったけど、大学図書館は何ができるの？」と思っている人、**大野友和編『大学図書館がゼロからわかる本』（日本図書館協会）** 017.7||O67 がお勧めです。この本には、大学図書館ではどんなサービスを提供しているのか、レポートや勉強に役立つ図書や雑誌をどう探すのか、といった大学での勉強に対してとても役立つ事が述べられています。

「いちいち本を読むのが面倒。もっと簡単に図書館のことを知りたい」という人は**ビデオ『新・図書館の達人シリーズ』（紀伊国屋書店）** 視聴覚コーナー を見てみましょう。

このビデオは図書館で何ができるのかをわかりやすく解説しています。図書館司書養成の授業でも使用されており、内容はお墨付きです。

「図書館全体の事情はわかったけど、聖学院ではどうよ？」と思ったら、本学図書館で発行している**『図書館を使いこなす　ハンドブック　2006-2007』（聖学院大学総合図書館）** カウンターにて配布 を参照してみてください。

聖学院大学総合図書館で本をどうやって探せばいいのか、どのようなデータベースが提供されているのかがわかります。

図書館の使い方を知って、あなたも図書館の達人に!!

2006年度図書館の主な動き

◎入館ゲートを設置しました

2006年５月、入口に入館ゲートを設置しました。このゲートはICカード化された学生証や教職員証に対応していて、Touch and Go で通ることができます。

◎法人内図書館の蔵書が同時検索できます

2006年４月より、図書館システムに聖学院中高、女子聖学院中高の２図書館が本格的に参加。共通の蔵書検索システムで、３館の蔵書が同時に検索できます。本も大学図書館を通して借りられます。

◎館内貸出用 PC が新しくなりました

2006年５月、館内貸出用ノート PC を新型マシンに入れ替えました。動作速度も速く、ネットワークへの接続もスムーズになりました。

◎開架書庫資料を大幅に移動しました

以前、３階書架にあった経済、財政の分野の資料を２階書架へ移動しました。現在は、一般図書の配架が２階は総記～社会科学：財政（分類番号000～349）３階に社会科学：統計～文学（同350～999）となりました。

図書館の設備

１．面積

サービス・スペース（閲覧･視聴覚コーナー等）	888㎡
管理スペース（書庫・事務室）	1,186㎡ 書庫収容能力　224,000冊＊
合　計	2,074㎡

＊１段（90cm）を25冊として

２．閲覧室

閲覧座席数	315席	利用者用プリンタ	4台
利用者用端末	60台	複写機	2台
		マイクロリーダー	1台

３．視聴覚機器

テレビデオ	6台	LD プレーヤー	2台
CD プレーヤー	1台	DVD プレーヤー	1台
カセットプレーヤー	12台	DVD･ビデオプレーヤー	8セット

４．コンピュータ（業務用）

システムサーバー 無停電装置付	3台	事務用端末	13台
		プリンタ	3台
防犯カメラサーバー	1台	ハンディターミナル	3台

図書館の統計

Ⅰ　図書館の推移

	学生数	蔵書数	年間受入冊数	開館日数	貸出冊数	図書費
	人	冊	冊	日	千冊	千円
2006	2,969	264,673	7,869	276	19.5	32,345
2005	2,968	254,921	6,878	232	18.4	29,700
2004	2,938	247,250	8,287	275	17.5	30,400
2003	2,929	242,368	6,220	275	17.6	30,344
2002	2,931	235,745	6,223	271	18.4	33,805
2001	2,825	228,254	7,948	275	21	34,745
2000	2,549	219,368	6,769	274	18	35,805
1999	2,220	213,691	5,449	281	14.1	28,000
1995	2,137	163,506	13,438	271	21.5	39,700
1990	1,769	96,752	8,195	280	11.8	22,650
1985	1,005	51,000	5,043	284	10.1	12,399
1980	877	36,000	2,599	236	6.8	7,588
1975	763	22,000	4,265	183	3.5	3,754
1970	440	14,000	1,296	239	2.1	1,340
1968	256	10,000	2,838	〔247〕	〔1.4〕	〔1,380〕
1967	125	7,000		〔247〕	〔1.4〕	〔1,380〕

規程の変更に伴い、1999年以降は消耗品図書も含めた冊数とした。

Ⅱ　蔵書冊数

（2007年１月31日現在）

	和書	洋書	合計
総記	9,919	1,408	11,327
哲学・宗教	19,553	15,560	35,113
歴史・地理	16,757	3,145	19,902
社会科学(含教育学・福祉)	72,877	20,454	93,331
自然科学（含医学）	11,105	1,348	12,453
工学（含家事）	6,275	506	6,781
産業	4,557	446	5,003
芸術（含楽譜）	8,496	872	9,368
語学	10,281	3,138	13,419
文学	39,347	13,615	52,962
その他	4,072	942	5,014
合計	203,239	61,434	264,673

Ⅲ　その他の資料

（2007年１月31日現在）

和雑誌(紀要・寄贈含)	585	カセットテープ	1,234
洋雑誌(寄贈含)	128	ビデオ・LD・DVD	2,556
スライド	34	CD	901
マイクロ資料	14,918	CD-ROM	421

Ⅳ　館外貸出冊数（図書）：分類別

（2006年４月１日～2007年１月31日）

学生・院生・履修生のみ

	和書	洋書	合計
総記	604	0	604
哲学・宗教	1,985	50	2,035
歴史・地理	1,260	4	1,264
社会科学(含教育学・福祉)	7,165	26	7,191
自然科学（含医学）	871	0	871
工学（含家事）	358	2	360
産業	253	0	253
芸術（含楽譜）	873	17	890
語学	1,509	17	1,526
文学	3,433	81	3,514
その他	1,011	9	1,020
合計	19,322	206	19,528

Ⅴ　その他（他館との協力等）

（2006年４月１日～2007年１月31日）

資料借用	66(内、学・院生20)	視聴覚コーナー利用	1,992
資料貸出	39	館内ノートPC貸出	3,905
複写依頼	522(内、学・院生321)	文献検索	36
複写受付	341		
紹介状発行	26(内、学・院生22)		
紹介状受付	2		

Ⅵ　館外貸出冊数・学科・学年別

（2006年４月１日～2007年１月31日）

	図書合計	雑誌・紀要	CD-ROM	カセット	CD
院・政策２年	153	0	0	0	0
院・政策１年	109	13	1	0	0
院・ア２年	297	0	0	0	2
院・ア１年	35	0	0	0	0
院・後期３年	0	0	0	0	0
院・後期２年	43	0	0	0	0
院・後期１年	443	0	0	0	0
院・福１年	335	19	0	0	0
院・科目等	101	8	0	0	0
院　小　計	1,516	40	1	0	2
政治経済４年	394	14	0	0	1
政治経済３年	970	40	0	2	7
政治経済２年	347	28	2	0	11
政治経済１年	494	14	0	0	1
コミュニティ４年	307	6	0	0	1
コミュニティ３年	629	24	1	0	16
コミュニティ２年	259	16	0	0	2
コミュニティ１年	500	18	0	0	1
欧米文化４年	642	10	1	2	7
欧米文化３年	905	48	2	0	19
欧米文化２年	670	11	1	0	6
欧米文化１年	429	5	1	0	0
日本文化４年	920	16	0	0	7
日本文化３年	1,549	38	3	0	13
日本文化２年	1,008	30	1	0	9
日本文化１年	989	1	0	0	1
児童４年	772	13	0	0	2
児童３年	1,194	3	0	0	5
児童２年	2,169	11	0	0	5
児童１年	616	1	0	0	0
人間福祉４年	580	20	2	0	0
人間福祉３年	884	21	3	1	10
人間福祉２年	352	1	3	0	0
人間福祉１年	394	1	0	2	8
科目等履修	39	7	1	0	0
大学小計	18,012	397	21	7	132
合　計	19,528	437	22	7	134

発行・編集　聖学院大学総合図書館
〒362-8585　埼玉県上尾市戸崎１番１号
電話 048-725-5461　FAX 048-780-1096
E-mail : lib@seigakuin-univ.ac.jp
URL : http : //www.seigakuin-univ.ac.jp/scr/lib.asp